

2021年4月8日
 損害保険ジャパン株式会社
 先進モビリティ株式会社

後続無人の隊列走行向け自動車保険プランの開発

損害保険ジャパン株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：西澤 敬二、以下「損保ジャパン」）は、先進モビリティ株式会社（本社：東京都目黒区、代表取締役：青木 啓二、以下「先進モビリティ」）と協力し、隊列走行特有のリスクを補償する新たな自動車保険のプランを開発しました。本日、隊列走行の実証実験を行う事業者様等への提供を開始します。

1. 開発の背景

自動車の隊列走行技術^{※1}は運転負荷の軽減やドライバー不足の解消、燃費向上によるCO2排出量の削減などさまざまな社会的効果が期待されることから、国内外で早期実現に向けた研究・開発が進められています。



先進モビリティは2016年から経済産業省および国土交通省の「高度な自動走行システムの社会実装に向けた研究開発・実証事業：トラックの隊列走行の社会実装に向けた実証」へ参画し、自動運転や隊列走行に関する技術開発や後続車無人走行実現のための課題を検証してきました。



損保ジャパンはこれまで多数の自動運転サービス実証実験に参画し、実証実験を実施する企業の声をもとに保険商品・サービスの開発を進めてきました。

今般、後続無人トラック隊列走行の実証実験に際し、隊列走行特有のリスクを補償する専用保険プランを両社で新たに共同開発しました。

※1 トラック等を電子連結技術（車車間通信）により一体に制御し、複数台の車両が隊列車群を構成し走行する技術です。

2. 新たな補償の概要

商品概要	補償内容
電子けん引途絶時 ^(※2) の車両運搬・運転者派遣費用	電子けん引が途絶し、かつ、後続無人の隊列自動車に運転者が搭乗していないために、後続車両が走行不能になってしまった場合に、この自動車を運搬するための「車両運搬費用」「運転者派遣費用」を補償します。
※3 業界初 電子けん引途絶時の積み荷運搬・移動費用	電子けん引が途絶した場合、当該自動車自体を速やかに持ち帰り、原因分析等を行う必要があるため、「積み荷を収容している場合にその積み荷を当初目的地まで運搬する費用」「バス等乗客を搭乗させている場合にその乗客が当初目的地まで移動する費用」を補償します。 
※3 業界初 割込み車等との接触事故に対する補償	これまでも相手方の歩行者等の過失部分も含めて治療費等をお支払いする補償はありましたが、隊列内に二輪車等が入り込み事故が発生するケースに対応するため、相手方が自動車であつても相手方過失分も含めて修理費を補償します。 

<p>高速道路上での立往生など 通行不能損害</p>	<p>電子けん引が途絶し、かつ、後続無人の隊列自動車に運転者が搭乗していないために、高速道路が通行不能になった場合に、道路管理者等に損害賠償を行うための費用を補償します。</p>
<p>車両開発事業者等の 被保険者追加</p>	<p>対人・対物賠償の被保険者に「被保険自動車に自動運転の技術を提供する車両開発事業者」などを追加することで、事故発生時の車両開発事業者間の過失割合の協議を不要とし、自動運転実施事業者間の紛争を未然防止することができます。</p>
<p>インフラ設備の欠陥等による事故の賠償責任^(※4)</p>	<p>安全性向上のため路車間通信システムを活用する実証実験の際、インフラ設備工事の欠陥や管理不備による事故が発生した場合の賠償責任を負担することによって被る損害を補償します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>磁気マーカー連携</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>信号との連携など</p>  </div> </div>

※2 先頭車両と後続車両（2台目以降）の電子連結（隊列走行技術）が途切れた場合

※3 損保ジャパン調べ

※4 インフラ設備の欠陥等による事故の賠償責任部分は、自動車保険以外の商品で設計します。

本専用保険プランは後続無人のトラック隊列走行実証実験だけでなく、後続有人やバスなどトラック以外の車両での隊列走行実証の場合にもご加入いただけます。

3. 今後について

損保ジャパンおよび先進モビリティは、新たな技術の社会実装を支援するための商品・サービスの研究・開発に積極的に取り組み、安心・安全な社会の実現に貢献していきます。

以上